



# 総合診療 総合内科 特集

大分大学医学部



## 2018年4月から開始された「新専門医制度」で19番目の専門医として位置付けられた「総合診療医」。

その役割や現状について、大分大学医学部 総合診療・総合内科学講座 宮崎 英士 教授、塩田 星児 准教授にお話をうかがった。

### 総合診療医は、具体的にどんな役割を担っているのでしょうか。

**宮崎先生** 総合診療医とは、一言で言うと、患者の年齢、臓器などを問わず、すべての健康問題に対応できる能力を持った医師です。必要があれば臓器別専門医や看護師、薬剤師、ケアマネージャーなど他職種と連携して、その人の健康問題を解決するためのマネジメントを手がけることが、総合診療医の大きな役割です。その能力を得るため特別なプログラムで研修を受け、資格を取得した総合診療専門医を育成するのが大分大学医学部総合診療・総合内科学講座です。

**塩田先生** 総合診療医は幅広い視野で患者や家族を見守り地域を支える、オールラウンドプレイヤーと言えます。治療だけでなく病気の予防から終末期まで、扱う問題の広さや多様性も総合診療医ならではと言えます。

### 今、総合診療医が求められている背景にはどういったものがあるとお考えですか。

**塩田先生** ひとつは少子高齢化です。高齢者の方は複数の慢性疾患を抱えている場合が多いことから、ひとつ

の臓器だけを診るのではなく、すべての健康問題に対応できるオールラウンダーな医師が求められているのだと思います。もうひとつは、医師や診療科の地理的偏在です。臓器専門医はどうしても都市部に集中しがちですからね。

### 宮崎先生がこれまでこの講座で教授を務めてこられたなかで、意識して取り組まれてきたこと、感じてきたことを教えてください。

**宮崎先生** これまでの医学教育は臓器別の専門医育成に主眼が置かれていましたが、超高齢社会を背景に、また、こうした講座が生まれたことで総合的な診療能力を持つ医師を目指そう、という人が増えています。患者と家族の抱える健康問題をすべて受け止め、多職種とも連携して解決を図る能力を持つ総合診療専門医が育ってきています。総合診療医は、病気というよりも「人」をみる専門医です。総合診療科には、疾患、臓器を特定できない症状に悩む方も多く来院し、その症状にはメンタルや家族の状況など、さまざまな要因が絡んでいることも少なくありません。そのため、日常的に頻度の高い疾患を適切に診断できる能力はもちろんですが、心理社会的要因まで深く掘り下げて、患者とともに歩む姿勢が大事です。そういった点では、

とりわけ優しさや思いやりといった資質を備えた人が集まる場所だと感じます。患者の思いを理解し寄り添う「気持ち」だけではなく、具体的な寄り添い方や解決に導く「スキル」も学び、身に付けているのが総合診療専門医です。

現在、総合診療を専攻する医師は専攻医全体の1～2%程度です。当院を含め、総合診療科の患者数が年々増加するなか、人材育成は大きな課題です。学生たちの入学時のマインド、モチベーションを維持し、総合診療医に限らず卒業後大分県で活躍する医師を増やすことも課題にあげられます。

### 講座の今後の展望をお聞かせください。

**塩田先生** 総合診療医が活躍する場は大きく分けて3つあります。1つは大学、総合病院、2つ目は地域の病院、そして3つ目は診療所や在宅です。それぞれの現場で活躍できる人材、さらに各現場で指導ができる人材を育てることが大切だと感じています。また、医師が開業する前に、コモンディーズに対応できるよう学び直しの場合としての役割、つまり医師のセカンドキャリアを支える役割も担っていくことも今後増えていくと思います。

### 最後に、読者のみなさまにメッセージをお願いします。

**塩田先生** マイナンバーカードの健康保険証利用など、医療もさまざまなデジタル化が進みつつあります。とはいえ、おくすり手帳の携帯、過去の病歴の把握などをご自身でしっかり管理しておきましょう。近隣の行きやすい医療機関で、なんでも相談できる、信頼のおけるかかりつけ医を持つこともおすすめです。なにか症状が出た時に、それが年齢によるものなのか、そうでないのかが判断しやすくなりますし、何より心強いと思います。

**宮崎先生** 総合診療専門医は、患者や家族の思いを汲み取るコミュニケーション技法や医療だけでは解決できない健康問題へのアプローチ方法などについてトレーニングを受けた専門医です。どんなに些細な悩みでも一緒に考えます。健康状態に不安がある方は、お気軽にご相談ください。